

2018年（平成30年） 6月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/14~6/20のNYMEX・WTIは、65.06~66.89ドルの範囲で推移した。

6月21日は、22日のOPEC総会、23日のOPEC・非OPEC合同会議を控え、減産緩和観測が強まる中、小幅ながら反落した。ただ、民間調査会社によるクッシングの原油在庫が取り崩しの見通しであること、ドル安・ユーロ高に伴う割安感が出たことで、下値は抑えられた。この日から繰り上がった8月限の終値は前日比0.17ドル安の65.54ドルだった。

週末22日は、第174回OPEC総会がウィーンの本部で開催され、過剰達成されている減産を本来の減産水準まで緩和(増産)することで合意した。実質的な増産幅は日量60~70万バレルと想定内に止まったこと、明確な減産幅や各国の割当枠が示されなかったこと、減産枠組みが維持されたことなどから、大幅に反発した。また、ベーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が862基(前週比1基減)と5週ぶりに減少した。7月限の終値は前日比3.04ドル高の68.58ドルだった。

週明け25日は、23日のOPEC・非OPEC合同会議で、全体での増産幅は、明示がなかったものの、OPECの増産より拡大されたこと、米国株式市場が暴落しリスク性商品が敬遠されたことなどから、反落した。8月限の終値は前日比0.50ドル安の68.08ドルだった。

26日は、この日米国政府が各国に対し経済制裁再開に伴うイラン石油の全面輸入禁止方針を伝えたこと、内戦の激化によるリビアおよびオイルサンド生産施設の停電によるカナダからの供給削減懸念が高まったことから、大幅反発し、5月下旬以来約1ヶ月ぶりに70ドル台に乗せた。8月限の終値は前日比2.45ドル高の70.53ドルとなった。

27日は、前日からの地合いに加え、EIAの米国在庫週報で原油在庫が市場予想を大きく上回る取り崩しが報告されたこと、また、週末のOPEC関係会合における難航予想が伝えられたことから、大幅続伸した。8月限の終値は2.23ドル高の72.76ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週70.80~74.30ドルの範囲で推移した。6月21日71.50ドル、22日71.30ドル、25日71.90ドル、26日72.50ドル、27日74.60ドルで推移した。

為替は、前週110.09~110.68円の範囲で推移した。6月21日110.43円、22日110.05円、25日109.69円、26日109.57円、27日109.89円で推移した。

財務省が28日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、51,493円/klとなり、前旬を2,206円上回った。ドル建てでは74.33ドルで前旬比2.89ドル高。為替レートは1ドル/110.12円。

主要元売会社の7月第1週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5~1.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同横ばい(18%ベース)だった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油は12週ぶりの値下がり、灯油は10週ぶりに値上がり止まった(18%ベース)。この週(6月第4週)の原油コストはわずかに値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円に値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/17 ~ 6/23	2,761 ▼ -43	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.5 ▼ -1.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/23	12,819 ▲ 31	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/25	70.42 ▲ 0.59	▲ 25.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/25	68.08 ▲ 2.23	▲ 24.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	74.33 ▲ 2.89	▲ 22.20
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,493 ▲ 2,206	▲ 15,135
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.12 ▼ -0.44	▲ 0.76
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/25	110.69 ▲ 0.88	▲ 1.59

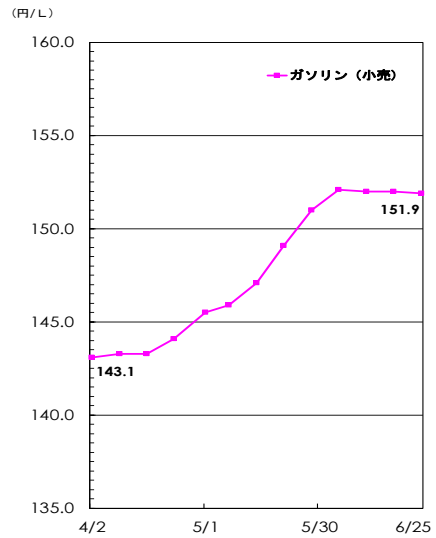
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/17 ~ 6/23	884 ▲ 47	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	926 ▲ 74	▼ -	
	輸出	"	26 ▲ 26	▼ -	
	在庫	6/23	1,675 ▼ -68	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/19 ~ 6/25	67.4 ▼ -0.1	▲ 18.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/19 ~ 6/25	62.4 ▼ -1.2	▲ 16.5
		(TOCOM/中部)	6/25	63.0 ▼ -0.5	▲ 16.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/25	151.9 ▼ -0.1	▲ 21.3	

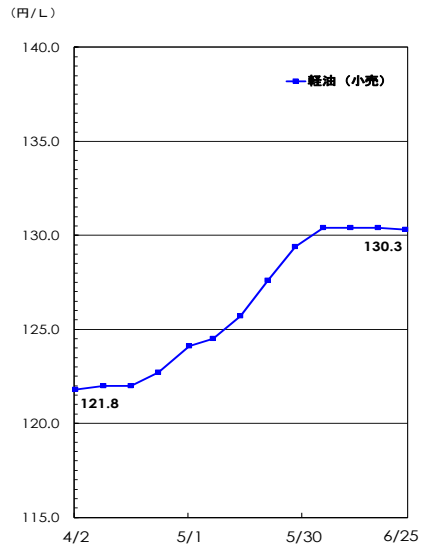
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

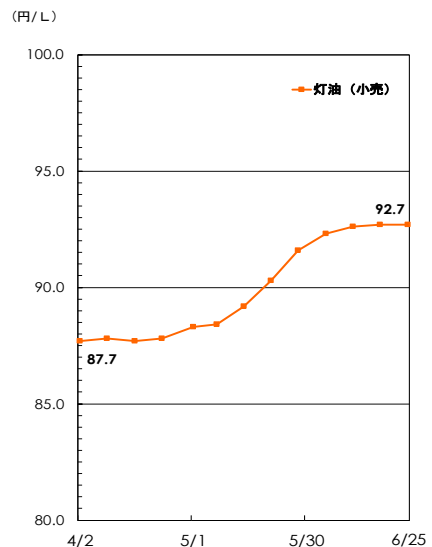
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/17 ~ 6/23	725 ▲ 14	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	618 ▲ 10	▼ -	
	輸出	"	174 ▲ 77	▲ -	
	在庫	6/23	1,494 ▼ -68	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/19 ~ 6/25	68.7 ▼ -0.3	▲ 21.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/19 ~ 6/25	67.3 ▼ -1.2	▲ 19.3
		(TOCOM/中部)	6/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/25	130.3 ▼ -0.1	▲ 20.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/17 ~ 6/23	79 ▼ -28	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	99 ▲ 7	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/23	1,521 ▼ -21	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/19 ~ 6/25	67.7 ▼ -0.1	▲ 22.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/19 ~ 6/25	65.8 ▼ -1.3	▲ 21.9
		(TOCOM/中部)	6/25	66.0 ➡ 0.0	▲ 22.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/25	92.7 ➡ 0.0	▲ 16.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月27日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が前週比990万バレル減と市場予想(同260万バレル減)を大きく上回る取り崩しが報告され、また、前日からの米国のイラン産石油の輸入禁止要請、リビアの内戦に伴う出荷障害、カナダのオイルサンド施設の停電等の供給不安もあって、大幅続伸し、2014年11月6日以来の高値を記録した。8月限の終値は前日比2.23ドル高の72.76ドル、9月限の終値は前日比1.98ドル高の71.26ドルだった。

EIAによると、6月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.6セント値下がりの1ガロン2.833ドル(82.7円/ℓ)と

なった。ディーゼルは前週比2.8セント値下がりの3.216ドル(93.9円/ℓ)。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルも4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年6月17日～6月23日に休止したトッパー能力は89.0万バレル/日で、前週に対して9.9万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は276.1万klと、前週に比べ4.3万kl減少。前年に対しては37.3万klの減少。トッパー稼働率は70.5%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては9.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/5.6%増、ジェット/40.0%増、灯油/26.5%減、軽油/1.9%増、A重油/21.5%増、C重油/17.9%減。今週のC重油の輸入は3.1万kl(前週比2.6万kl増)。軽油の輸出は17.4万kl(前週比7.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではC重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は92.6万kl(対前週8.7%増)と前週比で2週振り増加となり、13週連続で100万klを下

回った。

ジェット6.4万kl(対前週12.6%減)、灯油9.9万kl(対前週8.1%増)、軽油61.8万kl(対前週1.8%増)、A重油18.1万kl(対前週3.1%減)、C重油20.9万kl(対前週30.1%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/17 ~ 6/23)	前週 (6/10 ~ 6/16)	前週比	
ガソリン	926	852	▲ 74	(9%)
ジェット燃料	64	74	▼ -10	(-14%)
灯油	99	92	▲ 7	(8%)
軽油	618	608	▲ 10	(2%)
A重油	181	187	▼ -6	(-3%)
C重油	209	161	▲ 48	(30%)
合計	2,097	1,974	▲ 123	(6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月23日時点の在庫は、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは167.5万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては17.5万kl少ない。

灯油は152.1万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては0.1万kl多い。

軽油は149.4万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては3.1万kl多い。

A重油は75.3万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては2.1万kl少ない。

C重油は213.2万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/23)	前週 (6/16)	前週比	
ガソリン	1,675	1,743	▼ -68	(-4%)
ジェット燃料	947	983	▼ -36	(-4%)
灯油	1,521	1,542	▼ -21	(-1%)
軽油	1,494	1,562	▼ -68	(-4%)
A重油	753	747	▲ 6	(1%)
C重油	2,132	2,198	▼ -66	(-3%)
合計	8,522	8,775	▼ -253	(-2.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月19日から6月25日の原油価格は前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、6月19日から6月25日までの間、ガソリン121円台でわずかに値下がり、軽油68～69円台でやや値下がり、灯油67円台でやや値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン122円台で横ばい、軽油68円台でやや値下がり後横ばい、灯油66円台で

出入り後やや値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン115～117円台で出入り激しく値下がり、軽油67円台でわずかに値下がり、灯油65～66円台で出入り後ほぼ横ばいで推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5～1.0円の値下がりに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上のガソリンがわずかに値上がりした以外は、幅はまちまちながら、各油種・各取引とも値下がりした。

7月第1週(6月28日～7月4日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月19日～6月25日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.2円の値下がり、灯油は1.3円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替は円高で、原油コストは値下がりした。

7月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5～1.0円の値下がりとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/19 ~ 6/25)	前週 (6/12 ~ 6/18)	前週比
レギュラー	67.4	67.5	▼ -0.1
灯油	67.7	67.8	▼ -0.1
軽油	68.7	69.0	▼ -0.3

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/19 ~ 6/25)	前週 (6/12 ~ 6/18)	前週比
レギュラー	62.4	63.6	▼ -1.2
灯油	65.8	67.1	▼ -1.3
軽油	67.3	68.5	▼ -1.2

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	▼ -1.2	▼ -0.7
灯油	▼ -0.1	▼ -1.3	▼ -0.7
軽油	▼ -0.3	▼ -1.2	▼ -0.8
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の151.9円、軽油も同0.1円安の130.3円、灯油は同横ばいの92.7円(18ℓベースでも横ばいの1,668円)だった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油は12週ぶりの横ばい、灯油は10週ぶりに値上がりしが止まった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは14県、横ばい11府県、値下がり22都道県だった。横ばいは、大阪府ほか10府県だった。全国最安値は徳島県の144.6円(同0.1円安)、次が埼玉県148.0円(同0.2円高)、最高値は長崎県の160.7円(同0.2円安)だった。最も値上がりしたのは、0.6円高の鹿児島県(157.9円)・愛知県(150.3円)、最も値下がりしたのは、0.8円安の東京都(151.7円)だった。

先週の原油コストはわずかに値下がりしたが、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。

今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週(7月2日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり予想される。

[週動向]	今週 (6/25)	前週 (6/18)	前週比	直近高値
レギュラー	151.9	152.0	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	92.7	92.7	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	130.3	130.4	▼ -0.1	08/8/4 167.4

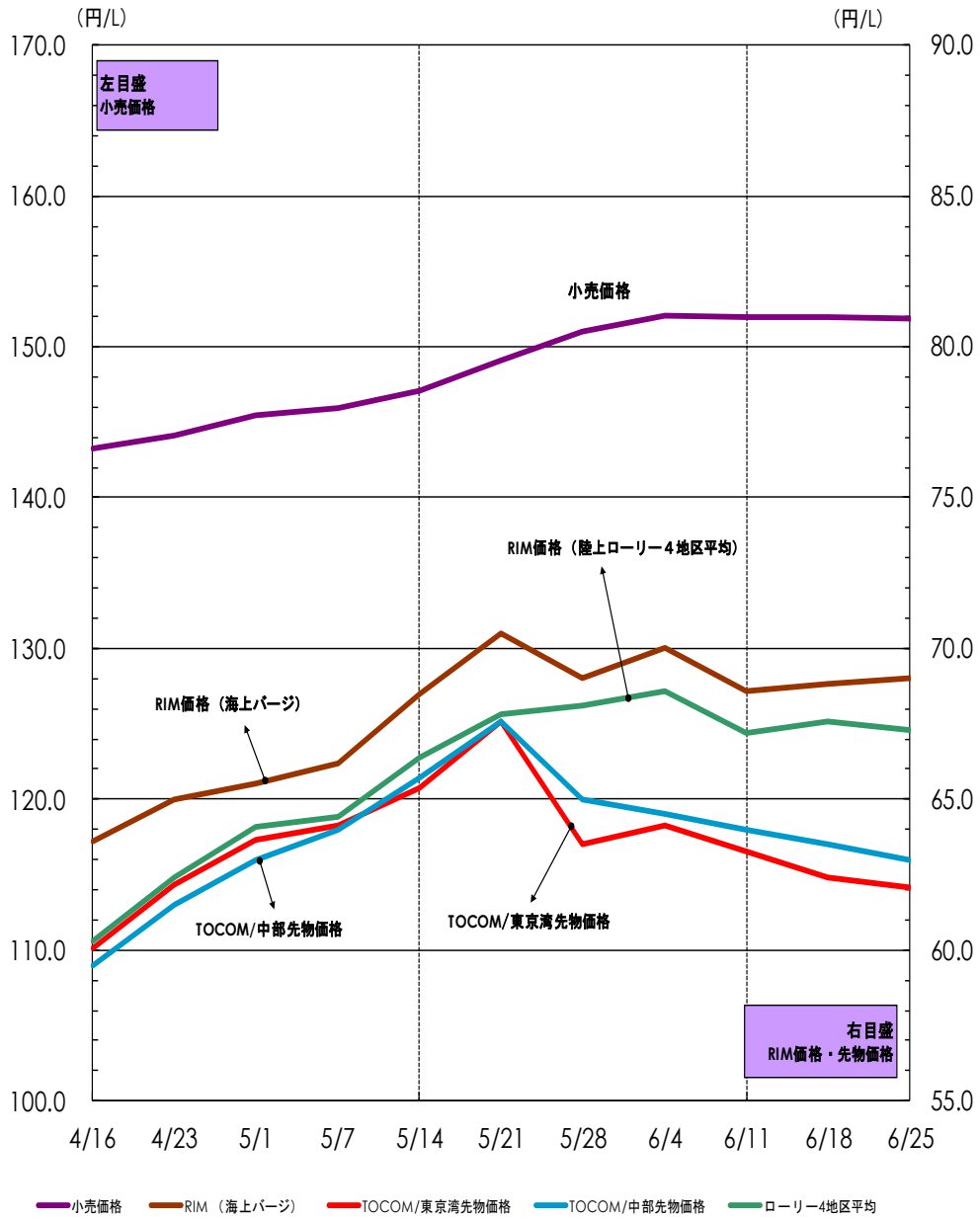
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/4/16 ~ 2018/6/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第13号)の公表は、7/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。